RESULTS the power to end poverty

飢餓と貧困をなくすための政策提言を行う国際市民グループ　通算74号

日本リザルツ　Letter Vol.14

action Advocacy to Control TB Internationally

2010年5月15日 第14号 発行：日本リザルツ お問い合わせ（担当：西尾）TEL：03-5280-2888 FAX:03-5280-2889 E-mail：info@results.jp

1．最新の活動；ハイチ、BASURA上映会、世界基金、ODA委員会、ACSM会議、国際連帯税 等

【　ハイチ：“ハイチのマザーテレサ”に同行・現地視察　】　※詳細は、別紙をご参照ください。

大地震から3カ月が経過したハイチに、4月20日から26日まで須藤シスターとNHKの取材班に同行し、現地を視察した。ハイチの結核医療の拠点でもある GHESKIO（ゲスキオ）やその関連施設である研究所、保健省の管轄であるNTP(National TB Program)を視察した。また日本大使館の方々にも面会、シスターが34年前から関わっていらしたシグノの結核サナトリウムの視察にも同行した。首都ポルトープランスは、震災後 3 カ月経ったとはいえ、街は瓦礫の山。街のあちこちで手作業により瓦礫を運び出し、リヤカーで運んでいる人々を目にした。また、いたるところに無数のテント村が広がっている。多くの人々が自分たちで拾ってきた木材と布で今にも崩れそうなテントに家族が寄り添うように暮らしている。GHESKIO の Dr.Pape博士によると、すでに震災前から結核の高蔓延国であったハイチで、この震災により治療は中断され、密集したテント生活でますます感染が広がる恐れが高く、薬の中断による多剤耐性結核（MDR-TB）の発症や感染は脅威となっているとのこと。GHESKIO 自体も病院のいたるところが崩壊し、かろうじて使える場所で HIV／エイズと結核の二重感染者の治療にあたっていた。この混乱した状況で患者を見つけ出し、治療を続けることが緊急の課題となっている。23日にレオガンへ移動し、須藤シスターが所属する修道会に滞在。この修道会でシスターは自立支援のための農業支援 GEDDH(ジェッド)を主催している。シスターがハイチへ戻って来られたことを期に、GEDDH のメンバーが集まり震災後初のミーティングが行われた。ここでシスターは農薬を使わないで木酢を使った農業を教えている。この GEDDH が農業学校を作る予定だった場所には震災後家を失った人々がテント村を作っていた。日本の無償援助で一部建設された結核サナトリウムも崩壊し、敷地内にテントを張り患者の看護をしていた。ハイチはこれから本格的な雨季に入り、サイクロンも危惧されている。私たちもテント生活を経験したが、一刻も早く、テントで暮らす人々や患者の皆さんにせめて安全なプレハブ住宅ができれば、と切に願うばかりである。

インターン　松永　久美子

無残に倒壊したシグノの施設

須藤シスター（1番左）とパップ博士（左から2番目）

農業学校と農園の予定地にテントが広がる

【　フィリピン：映画「BASURA」上映会、記者会見　】　※詳細は、別紙をご参照ください。

4 月 8 日、憲政記念館で世界の貧困の象徴とされたフィリピンのゴミ捨て場「スモーキーマウンテン」で暮らす人々を追い続けたドキュメンタリー映画「BASURA」の上映会を行った。二回行った上映会には、国会議員、省庁からの出席者をはじめ学生や一般市民、社会人など合計 300 名の来場者を数え、記者会見には多くのメディアが集まり、関心の高まりに手ごたえを感じた。多くの皆様のご協力に感謝申し上げます。

【　世界基金：日本政府の拠出額　過去最高の249億円に　】

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）への 2010 年度の日本の拠出金、60 億円が、一般会計予算として 2010 年 3 月 24 日に成立した。2010 年 1 月 29 日に既に成立し 2009 年度第 2 次補正予算で認められた 189 億円を加えると、世界基金への拠出額は合計 249 億円となった。これは、昨年（2009 年度）実績から 49 億円の増額（24.5%増）となり、世界基金が設立されて以降、日本政府が世界基金に拠出する金額としては、過去年間最大になる見込みである。しかし、今後も世界の三大感染症対策に向け、さらにアドボカシー活動を地道に続けていく必要性があることを実感している。

【　ODA：NGOと外務省定期協議会の臨時全体会議　】

4月13日午後、外務省講堂にて、NGO側、外務省側あわせて100名の大会議が開催された。テーマは、外務省側のODAのレビュー作業にたいしてNGO側から意見を表明するものであった。岡田外務大臣・福山外務副大臣・西村政務官が出席し、NGO側が発表・質問を行い、それに外務省側が意見を述べて返答するという形式であった。リザルツの白須からは、ODA広報の原点は、関東大震災で日本国民が受けた支援への感謝の気持ちであり、それをパンフレットなどで国民に広く配布すれば、国民理解も得られるのでは、との提案を行った。次回の会議は6月に開催予定。

【　結核①：ODA委員会（国会；参議院）を傍聴　】

3月23日、リザルツのスタッフ他数名で参議院ODA委員会を傍聴した。傍聴席へは空港並みのセキュリティーチェックを経て入る。中では私たちの席を背に岡田外務大臣と福山外務副大臣が座り、その向こうにはストップ結核推進議連会長でリザルツの理事でもある広中和歌子参議院議員をはじめとしたODA委員会のメンバーが控え、各々質問を行った。いずれの質疑応答も大変興味深いものだったが、とりわけストップ結核推進議連事務局長の浜田昌良参議院議員の結核対策への日本政府の取り組み方についての質疑では、大臣、副大臣から今後ともより積極的な姿勢が期待できるであろう回答が印象的だった。質疑の中、浜田議員が「顔の見える日本の貢献」という言葉を使われたが、その“顔”の意味するところは、間違いなく政府のそれではなく、国民一人ひとりの顔であるべきだと思った。

【　結核②：ACSM会議（米国ワシントンDC）に参加　】

4月2日に米国ワシントンDCの世界保健アドボカシーNGOであるグローバル・ヘルス・カウンシル会議室にてストップ結核パートナーシップ日本（以下STBJ）主催（資金は国際交流基金日米センターの助成金）による日本の結核ACSMの事例研究発表およびそれを材料とした議論の場が日本・米国・英国の結核関係者間で持たれ、リザルツ狩野も参加した。STBJの田中事務局長が司会進行を務め、ACSM経験を関係者で共有していくことの大切さ、社会的・文化的コンテクストの重要性などが確認され、新興国、アジア開発銀行などの地域開発銀行など、さらにパートナーを増やしていくことの重要性を確認して終了した。

【　結核③：多剤耐性結核（MDR-TB）　WHO　レポート発表　】

2008年のデータをもとにした世界保健機関（WHO）の新報告書によれば、耐性結核患者の半分は中国・インドで、それぞれ10万人が新規発生している。耐性結核は、東欧・中央アジアでもみられる。タジキスタン・ウズベキスタンの一部では結核の6割は耐性結核である。WHOは2008年には、39万から51万人が耐性結核で、このうち15万人が死亡していると推定している。耐性結核は、結核治療の失敗や、標準以下の薬剤によって生じる。治療は、通常の結核より期間も、費用もかかり、そして副作用も大きい。WHOなどは、近年、結核とHIV／エイズという2つの病気の重なり合いがさらに感染の拡大につながる可能性があると警告し、その両方への資金不足を指摘している。

【　結核④：第4回ストップ結核アクションプランフォローアップ会合　】

4月15日外務省会議室で2008年7月に発表されたストップ結核日本アクションプランの第4回フォローアップ会合が官民5者［外務省、厚生労働省、JICA、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本（以下STBJ）］20名で開催された。各々から過去6ヶ月の取り組みについて報告があり、その後外務省国際協力局　長岡専門機関室長が議事進行役となり、世界基金の枠組みで結核対策に貢献していくためにはどのような取り組みが日本側で可能なのかなどのテーマで話し合った。STBJの森代表理事、リザルツの白須事務局長、狩野の3人は、アクションプランができてから二年になりつつあるので、外部評価・第三者評価をすべきではないかと提案した。また、STBJと厚生労働省担当課との定例会議の提案も行った。

第4回ストップ結核アクションプランフォローアップ会合の様子

【　結核⑤：女性と結核（世界女性デー）レポートの発信　】

米国リザルツのポール・ジェンセン調査部長から世界女性デーを記念して女性と結核についてのレポートが出された。リザルツは、それを翻訳し厚生労働省記者クラブで関係者へ3月8日に配布した。主な結論は以下である。結核に罹患している女性は、男性と比べて診断が遅れる傾向にある。女性はヘルスケアへのアクセスが充分でなく、また伝統的医療を好む傾向がある。結核に罹る女性に対する社会的汚名と好ましくない社会的な結末（離婚や差別等）、また結核が男性の病気と見られているがゆえに女性への脅威と認識されていない。結核を発症した女性は社会的または身体的理由から、あるいはその組み合わせから男性より死亡しやすい。女性の結核患者は早産や低体重児を出産するリスクが普通の2倍

になり、妊娠している女性が結核に罹患し診断が遅れると出産時に死亡するリスクが 4 倍にもなる。
※詳細なWHO報告は、こちら→http://www.who.int/gender/women_health_report/en/index.html

【　国際連帯税Ⅰ：第6回国際連帯税推進協議会（寺島委員会）会合　】

3 月 16 日、参議院議員会館会議室で同推進協議会委員、財務省、外務省、環境省など関係者 20 名で開催された。第5回以降の主な動きということで、環境関係で COP15、国際連帯税で第 7 回リーディング・グループ総会報告など関係者が発表し、意見交換をおこなった。リザルツの狩野は、横浜市立大学の上村准教授・オルタモンドの田中事務局長とともにチリ総会参加の印象、世界的な革新的資金メカニズム実現への動きが起きていることを発言した。

【　国際連帯税Ⅱ：G20 財務大臣・中央銀行総裁会議にむけての要望書 提出　】

4 月 15 日に財務省の菅財務大臣、峰崎副大臣、財務官、国際局長、主税局審議官にカナダで開催される G20 財務大臣・中央銀行総裁会議へ向けて要望書をリザルツの白須事務局長、オルタモンドの田中事務局長で提出した。要請内容は、カナダサミットで MDGs、金融取引税など、そして投機マネー抑制を議論することの 3 点である。

【　国際連帯税Ⅲ：国際連帯税を推進する市民の会（アシスト）総会＆一周年記念シンポジウム 報告　】

4 月 24 日、アシストの総会と発足一周年記念シンポジウムが青山学院大学で開催された。総会終了後、「世界がもし 100 人の村だったら」の編著者である池田香代子さんの講演があり、その温かなお人柄に触れながら、今や多くの人に読まれるに至ったその本がどのような経緯で出版されたかをご自身の言葉で聞くことが出来た。引き続き行われたシンポジウムでは、国際連帯税に関わる各分野からリザルツの狩野を含む専門家 5 名に池田さんが加わり、それぞれの立場から国際連帯税に対する熱い思いが語られた。最後に各パネリストが国際連帯税とは何かを紙に書き示したが、横浜市立大の金子文夫教授の「超国家税」であるとの回答に、これからのグローバルな世界が目指すべき未来があるように思えた。

パネリストとして発言するリザルツ狩野（右から2番目）

【　国際連帯税Ⅳ：国際専門家グループ最終報告書作成に向けた会合　】

昨年 10 月に、日本も含めて 59 ヶ国が加盟する「革新的開発資金に関するリーディング・グループ」は「開発のための国際金融取引に関するタスクフォース（専門作業部会）」を創設した。その中に世界各国から選ばれた 9 名からなる専門家グループを設置。今回、日本からは横浜市立大学の上村雄彦准教授が参加。これまでオスロ、ブリュッセル、ロンドン、ニューヨーク、ワシントンなどでヒアリングや活発な議論を継続的が行われ、その最終報告書は 5 月 15 日、まもなく提出される予定。どのような報告書が発表されるか、非常に楽しみである。

2．ストップ結核パートナーシップ（WHOジュネーブ本部）最新ニュースに掲載される！

【　ハイチの結核対策を訴える　】

ストップ結核推進議連、ストップ結核パートナーシップ日本、日本リザルツと結核予防会は、岡田外務大臣に地震で大きな影響があったハイチでの結核対策を緊急に取り組むよう要請書を提出した。西村外務政務官は、「外務省は結核・感染症対策に配慮して日本からの支援を行う。」と答えた。また“2 月 1 日、12 日に4者でハイチ募金を行い、以降毎月 12 日に継続的にハイチ募金を行う”とWHO（世界保健機関）のストップ結核パートナーシップにニュースで取り上げられた。
※ハイチ支援街頭募金活動を地震4ヶ月後の 5 月 12 日にも行い、多くのご協力をいただきました。皆様へ感謝申し上げます。

【　世界のストップ結核チャンピオンに就任　】

4 月 8 日、亀田興毅選手（ボクシングフライ級）が世界の結核征圧のため、ストップ結核チャンピオンに就任した。このことはWHO（世界保健機関）ストップ結核パートナーシップ（ジュネーブ）のニュースに“ストップ結核に、新チャンピョンが結核をノックアウトするため全面協力”というタイトルで、全世界へ発信された。亀田興毅選手は、“俺みたいな人間に何ができるかはわからんけど、何か少しでも力になれたら“と力強いポースを決めて新ストップ結核チャンピオンとしての抱負を語った。亀田興毅選手の公式ブログ http://ameblo.jp/koukikameda/day-20100408.html には共感や激励の書き込みの輪が拡がった。「この問題が自然災害のものじゃなく、人によって起こった問題やったら、同じ人間のみんなで絶対に解決出来るはず。」という興毅選手の言葉は、静かに、いつまでも、私たちの胸に強く響いた。

亀田興毅選手（中央）

3．マイクロクレジット（MC）～米国リザルツ ACTION マネジャー　エミリー・ウエンライト氏～

【　日本リザルツ来訪　】　※グラミン財団のホームページはこちら→ http://www.grameenfoudation.org/

エミリー（右から2番目）とリザルツ元スタッフ三澤さん（1番左）と旅人くん

米国リザルツ本部で ACTION プロジェクト[世界結核アドボカシー]のマネジャーに3月に就任したエミリー・ウエンライト氏がハノイのストップ結核パートナーシップ理事会に参加後、5月6日来日し、日本リザルツのオフィスを訪れた。その後、財務省、外務省の要人と面会した。彼女と日本リザルツからは、開催予定の世界基金に関するラウンドテーブルへの財務省・外務省の協力を要請した。彼女の夫は、ノーベル平和賞受賞者で日本リザルツの名誉顧問でもあるモハマド・ユヌス総裁が率いるグラミン銀行で実践をつみ、グラミン財団を1997年に立ち上げ、現在はそのCEOである、アレックス・カウンツ氏であったのも奇遇であった。彼女からは、今年米国でマイクロクレジットに関する研究を深めようと計画している元リザルツ職員の三澤千和さんへ、貴重なアドバイスをいただくことができた。短い滞在ではあったが、彼女と会えたことは、我々、リザルツとしても非常に有意義で、実りの多い機会であった。

4．パートナー ／ インターンの皆さんからの声　～サンドストロム・ミカエル～

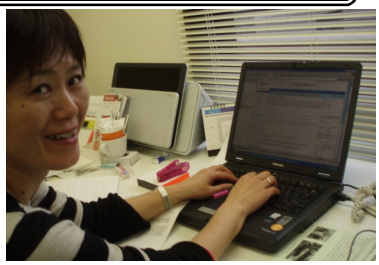
【 岡田外務大臣宛の手紙を携えて外務省を訪問　】

ミカエル（前列右）とリザルツのメンバー

私は早稲田大学3年に在学中（スウェーデン出身）ですが、日本政治界のトップまで幅広い層の人々に会う事が出来た。そのグランド・フィナーレは、4月8日に開催した「バスーラ」上映会である。このドキュメンタリー映画が提起する問題に関する意見交換を日本の皆さんと共に行おうと思った私は、すぐに岡田外務大臣に招待状を書き、外務省国際協力局専門機関室 濱田首席事務官に面談して手渡した。また、私の母国スウェーデン大使にも手紙を出した。上映会を通して「スモーキーマウンテン」のゴミ捨て場に暮らしている約3万人の人々は決して「バスーラ」ではないという意見をしっかり伝えられた。春休みのインターンシップの経験を通して、学生としても人としても成長することができたと思う。

5．パソコンの寄贈　～株式会社東芝様より～

【　株式会社東芝様 からパソコンを寄贈していただきました！　】



寄贈されたパソコンが大活躍

（ハイチから帰国したインターンの松永さん）

このたび、株式会社東芝様より第8回ボランティア活動支援：東芝従業員向けイーパーツリユースPC（パソコン）寄贈プログラムにより、パソコン2台を寄贈していただいた。20年近くリザルツのボランティアとして、また、今年からは監事も務めていただいている岡本直彦氏（株式会社東芝 社員）のご好意により実現したものだ。国内外の貧困やマイクロクレジット、結核などの感染症問題の解決に向けた政策提言活動や市民への普及啓発活動にフル活用をさせていただいている。温かいご支援、誠にありがとうございました。

6．お知らせ

【　「第7回国際連帯税推進協議会（寺島委員会）」会合　】 5月20日、参議院議員会館 第5会議室にて開催

【　須藤シスターのNHK番組放送　】 5月24日 NHKクローズアップ現代、6月中 BS世界のドキュメンタリーにて放送予定

【　第85回日本結核病学会総会（in 京都）　】 5月20日・21日、京都テルサにて開催

【　動く→動かす（GCAP Japan）運営委員会　】 5月27日、午前10時～12時、丸幸ビル会議室にて開催

【　ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）常任委員会　】 5月27日、午後5時～6時、水道橋ビル会議室にて開催

【　「開発のための国際金融取引に関するタスクフォース」閣僚級会合　】 5月パリにて開催予定

【　アフリカン・フェスタ2010　】 6月12日12:00～17:00、13日11:00～17:00 横浜赤レンガ倉庫にて開催※ボランティア募集中

【　リザルツ国際会議(ワシントン)　】 6月20日～24日、アメリカ・ワシントンDCにて開催

※日本リザルツの公式ブログで私たちのアドボカシー活動の様子をお知らせしています。→ http://resultsjp.exblog.jp/